あいち農産物生産流通レポート

2023年7月号

		ページ
◎ 情報サロン		
・イチジク新品種のブランド化方策	（農業総合試験場）	1
・東京都中央卸売市場における2022年産の愛知県産農産物の動向	（東京事務所）	2
◎ 地域トピックス		
・JA愛知みなみが整備する花き集出荷貯蔵施設の第１期工事が完成	（東三河農林水産事務所）	4
◎ 東日本情報		
・食品素材等の最新情報が分かる展示会が開催されました	（東京事務所）	5
◎ フラワーページ		
・「フューネラルビジネスフェア2023」が開催されました	（東京事務所）	7
◎ 青　果		
・愛知産青果物の動向（名古屋・東京市場）		9
・名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し		10
◎ 花　き		
・切花・鉢花の7月の見通し（県内市場）		22

※今月「西日本情報」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課　(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ　(03)-5492-5400

情 報 サ ロ ン

イチジク新品種のブランド化方策

農業総合試験場

イチジクは本県の主要果樹の１つです。市場には、従来からの「桝井ドーフィン」、「サマーレッド」に加え、果皮色が異なり糖度の高い「ビオレ・ソリエス」や「バナーネ」といった品種が流通しています。当場では、産地活性化につながるイチジク新品種の開発を進めていますが、付加価値の高い品種の開発や販売のためには、消費者ニーズに対応した系統選抜や、栽培指針及び販売方策の策定等、ブランド化に必要な取組事項を整理する必要があります。そこで、新品種の開発と並行して、消費者ニーズや販売事例等を調査し、イチジク新品種のブランド化方策を取りまとめました。

ブランド化を進めるためには「モノ的価値」（品質、機能等）を解明し、それを消費者や実需者に効果的に伝える「表示的価値」（名称、ロゴ等）と「意味的価値」（愛着、信頼等）を構築する必要があります。これらに関する調査結果と対応策の概要は下記のとおりです。

１　モノ的価値

イチジクに関する消費者ニーズを調査した結果、「赤色」の果皮色、「甘い」、「皮ごと食べられる」のニーズが高いことが分かりました（図）。イチジクの購入頻度別に調査した結果、頻度が高い消費者は赤色以外の果皮色のニーズも高いことが分かりました。また、「甘い」という回答の具体的な糖度の解析結果は 16～18 度でした。その一方で「皮ごと食べられる」性質を持ったイチジクは輸送性や日持ち性が悪くなるため、積極的な目標にしづらいと考えられます。以上より、新品種の主な開発目標は「赤色」の果皮色、糖度は 16～18 度とするのが望ましく、「赤色」の果皮色ではない品種でも購入頻度の高い消費者には受け入れられやすいと考えられます。

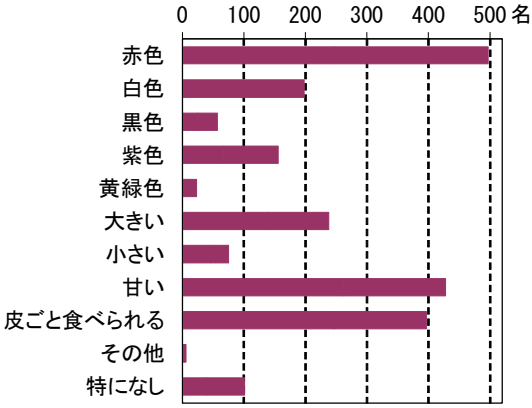


図 イチジクに関する消費者ニーズ
（2017 年全国調査、回答者 1,030 名）

２　表示的価値

量販店や直売所の販売事例を調査した結果、ブドウやナシではブランド名や品種名の表記がある一方、イチジクではこれらの表記がほとんどありませんでした。開発した新品種を他のイチジクと差別化するためには、親しみやすいブランド名の設定とオリジナルロゴの作成を行い、包装資材や売り場等に表記して新品種の認知度の向上を図る必要があります。なお、ブランド名やロゴは商標登録しておくことが望まれます。

量販店のイチジクの販売事例

３　意味的価値

消費者行動の先行研究を調査した結果、ブランドの評価を高めるためには、消費者における認知度だけでなく愛着感や高級感も高めること、そのためには品種や栽培方法に対する消費者の知識を高めることが必要であるとされていました。このため、試食宣伝会等のイベントだけでなく、サポーター制度の実施、web での情報発信、オリジナルロゴを活用した販促資材の作成等、イチジクの新品種に対する消費者の愛着や信頼づくりのための継続的な取組を行う必要があります。

本県のブランド品種「夕焼け姫」では
web サイトで高品質栽培の取組を紹介

情 報 サ ロ ン

東京都中央卸売市場における2022年産の愛知県産農産物の動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2022 年産（１月から 12 月まで）の東京都中央卸売市場（９市場）での本県産農産物の総取扱額は 336 億円（シェア 5.2%）で 47 都道府県の中で第６位でした。

なお、本県産農産物の内訳は野菜が182億円（前年対比119.1% ）、果実が20億円（110.1%）、花きが 126 億円（106.8%）となりました。

１　野菜の動向

東京都中央卸売市場での野菜の総取扱額は 3,591 億円で、前年をやや上回りました（＋3.2%、113 億円増）。

本県産について、キャベツは、２月以降、低温、干ばつによる小玉傾向のため数量が減って単価が上昇し、５月まで高値が続きました。11 月以降も干ばつのため数量が少なく高値を維持した結果、本県の取扱額は前年を大幅に上回りました。トマトは、１月以降は他県での病害多発や低温等により堅調な販売が続きましたが、10 月以降、夏場の高温の影響で出荷量が伸び悩み、取扱額は前年並となりました。ブロッコリーは、厳冬期から春にかけては低温、干ばつの影響等で大きなピークがなく堅調な販売が続き、10 月以降も干ばつ等の影響で高値となったことで、取扱額は前年をやや上回りました（表１）。

表１　東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（野菜）

品目	2022 年産（千円）	前年対比	順位（シェア）＊	上位産地
野菜合計	18,162,764	119.1%	6位（5.1%）	1位：茨城、2位：北海道、3位：千葉
キャベツ	4,990,331	155.4%	1位（29.4%）	2位：千葉、3位：群馬
トマト	2,637,216	99.6%	3位（9.3%）	1位：熊本、2位：栃木
ミニトマト	2,413,578	103.0%	2位（15.5%）	1位：熊本、3位：北海道
おおば	3,097,778	113.0%	1位（87.3%）	2位：茨城、3位：大分
ブロッコリー	933,691	105.5%	7位（6.8%）	1位：北海道、2位：香川、3位：熊本

＊順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

２　果実の動向

東京都中央卸売市場での果実の総取扱額は 1,911 億円で、前年並でした（＋1.8%、33 億円増）。

本県産のいちじくは、ハウスの生育が前進し、露地との端境期が盆前にできて入荷量を減らしました。その後、露地の入荷は安定しましたが、最盛期である８月に長雨の影響で入荷量・品質が低下し苦戦した前年から、取扱額は前年をかなり上回りました。いちごは、猛暑の影響によるスタートの遅れや、寒波の影響により２月の入荷量が少なく、取扱額は前年をかなり下回りました。かきは、出荷時期は後半にずれ込みましたが、天候による影響も少なく、表年により入荷量を大きく増やし、取扱額は前年を大幅に上回りました（表２）。

表２　東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（果実）

品目	2022 年産(千円)	前年対比	順位(シェア)＊	国内上位産地
果実合計	1,964,132	110.1%	19 位(1.0%)	1位:栃木、2位:青森、3位:山梨
みかん類	441,846	103.9%	7位(1.6%)	1位:愛媛、2位:静岡、3位:長崎
いちじく類	455,385	108.7%	1位(50.1%)	2位:和歌山、3位:静岡
かき類	516,623	136.6%	4位(7.7%)	1位:和歌山、2位:奈良、3位:福岡
いちご類	174,064	85.8%	11 位(0.5%)	1位:栃木、2位:福岡、3位:茨城
メロン類	105,463	116.4%	10 位(1.0%)	1位:茨城、2位:静岡、3位:熊本

＊順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

３　花きの動向

東京都中央卸売市場での花きの総取扱額は 908 億円で、前年をかなり上回りました（＋7.2%、61 億円増)。

本県産について、バラやカーネーションは、ブライダル需要などが高まったことや輸入の入荷が不安定であったことなどにより品薄となり、単価を伸ばしました。菊類は天候の影響による生育遅れなどにより、品薄単価高となり単価は前年をかなり上回りました。

これらを受けて、本県の花きの合計取扱額は前年をかなり上回りました（表３)。

表３　東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（花き）

品目	2022 年産(千円)	前年対比	順位(シェア)＊	国内上位産地
花き合計	12,567,925	106.8%	1位(13.8%)	2位:千葉、3位:埼玉
切り花計	9,384,933	110.5%	1位(15.2%)	2位:千葉、3位:静岡
菊類	6,119,074	109.9%	1位(40.2%)	2位:沖縄、3位:栃木
ばら類	1,081,954	107.5%	1位(17.7%)	2位:静岡、3位:山形
カーネーション類	363,104	109.6%	3位(5.9%)	1位:長野、2位:千葉
観葉植物	1,514,585	99.7%	1位(34.8%)	2位:鹿児島、3位:静岡
鉢花	566,909	93.9%	2位(12.5%)	1位:埼玉、3位:千葉
らん鉢	360,917	95.0%	5位(8.5%)	1位:千葉、2位:埼玉、3位:栃木

＊順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

地域トピックス

ＪＡ愛知みなみが整備する花き集出荷貯蔵施設の第１期工事が完成

東三河農林水産事務所

強い農業づくり総合支援交付金を活用した花き集出荷貯蔵施設の整備が行われ、第１期工事として田原・赤羽根地区総合集出荷貯蔵施設が５月に竣工し、６月２日（金）に竣工式が行われました。

１　事業実施の背景及び目的

ＪＡ愛知みなみの切り花は、３カ所の集出荷貯蔵施設（花ポート、マムポート、フラワーステーション）を拠点として、輪菊、スプレー菊、ばら、洋花などの切り花の集出荷を行ってきました。しかし、近年変化する消費者ニーズへの対応、施設の能力不足による販売機会の逸失が問題となっていました。

そこで、2022 年度から 2023 年度にかけて、施設を再編整備することとし、既存施設の機能強化や集約、施設等の新設や増設によりこれらの問題を解消し、産地の生産力・競争力の強化を図ることとしました。

総事業費は 1,957,890 千円で、うち補助金（国費）は 845,905 千円です。

２　取組及び効果

（１）出荷調整作業の省力化

これまではマムポートとして渥美地区のみだった輪菊バラ受け（生産者が選別・箱詰め作業をＪＡに委託）施設を田原・赤羽根地区に新設することで利用者の出荷作業時間を減らすことができます。

（２）品質向上

横持ち集荷場（集出荷貯蔵施設に転送するために設けられた一時出荷場所）を 14 箇所から８箇所に集約することで出荷から冷蔵までの時間が短縮され品質低下を抑制でき、配送効率が向上します。

また、長期冷蔵管理施設を拡充・新設することで出荷場内での品質低下を抑制し、物日など需要が多い時期でも出荷物が確保できるようになります。

（３）消費者ニーズへの対応

輸出や花束加工などに対応する専用加工場を新設することで特別仕様品に対応でき、多様化する消費者ニーズに答えることができるようになります。

また、各集出荷貯蔵施設の情報システムを統一することで出荷状況等がリアルタイムに把握でき、効率的な配荷が可能になります。

３　今後

2023 年度は渥美地区を整備するため、関係機関と連携し事業が円滑に行われるよう支援していきます。

竣工式で祝辞を述べる小林東海農政局長

食品素材等の最新情報が分かる展示会が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

「第 28 回国際食品素材／添加物展・会議（ifia（アイフィア） JAPAN 2023)」(主催：食品化学新聞社) が 2023 年５月 17 日（水）から 19 日（金）にかけて東京ビッグサイトの南１・２ホールで開催されましたので、その概要を紹介します。

１　ifia JAPAN 2023 について

ifia JAPAN は、食品素材や添加物に関する展示・講演等により食品のおいしさと安全を科学する展示会です。会場内は、食品素材や添加物に関する「ifia」(International Food Ingredients & Additives Exhibition and Conference)、「食の安全・科学」、「SDGs」の３つの展示エリアと「食の安全・科学」、「SDGs/ifia」の２つのセッション会場が設けられ、最新情報を積極的に収集しようとする人々で溢れかえっていました。

会場の様子

２　展示について

展示エリアでは、酸味料、甘味料、乳化剤、香料、着色料、タンパク質系素材、乳製品等の様々な展示が行われていました。中でも比較的多いと感じられたのがタンパク質系素材の展示で、大豆、エンドウ豆、大麦、米等の植物性タンパク質を粉末状・粒状・組織状等の様々な形態に加工した素材や、これら素材を利用した豆乳、植物ミートそぼろ、大豆パスタ等の食品が展示されていました。

展示の中には大豆由来のハンバーグやソーセージの実物の展示もあり、外観上は動物肉のものと遜色ありませんでした。

また、昆虫タンパク質由来の食品の展示もありました。昆虫食については、2013 年に国連食糧農業機関（FAO）が食用昆虫は家畜の飼育と比べて環境負荷が少なく、栄養価も高いことから、食糧問題の解決策として有用とする報告書を公表し、それ以降、我が国でも注目が集まっています。

植物性タンパク質で作られたソーセージとハンバーグ

昆虫タンパク質をブレンドした蕎麦

このほか、本県からは「西尾の抹茶」を取り扱う２社が抹茶の食品素材としての需要拡大を目的に出展していました。両社ともに素材として混ぜて加熱しても鮮やかな緑色と抹茶の豊かな風味が持続することをＰＲしていました。この２社に聞いたお話では、素材や輸出に関する全国規模のイベントに西尾茶協同組合に属する会社から毎回２社程度が出展しており、抹茶の食品素材としての需要拡大に力を入れているそうです。

「西尾の抹茶」の粉末や加工品の展示

３　講演会・セミナーについて

２つのセッション会場では講演会やセミナーが連日行われましたが、それらの中でタンパク質系素材をテーマにした講演を聞くことができましたので、要点を紹介します。

（１）大豆について

・2022 年に世界の人口は 80 億人を突破し、2025～2030 年の間に食肉の需要量が供給量を超えると推測されている。また、近年は主要畜産物の水消費量が増えている。食糧危機、人口増加、地球温暖化、水不足に対する解決策の一つとなるのが大豆である。

・大豆は CO_2 換算では牛肉の 85 分の 1 しか温室効果ガスを排出しないため、動物性タンパクに比べてエネルギーとコスト面で効率的であり、SDGs にも貢献する食材である。

・栄養面では、必須アミノ酸は卵、肉類と遜色なく、栄養バランスの良い食生活と健康維持に貢献する。

（２）昆虫食について

・東欧以外の約 20 億人が 2,000 種類以上の昆虫を食べている。日本での昆虫食の広がりは、国内需要の高まりよりも、SDGs や環境問題等の外圧によって国内に浸透し始めた。

・日本人は昆虫食にマイナスのイメージを持っている。無理に食べる必要はないが、食べたい人達のためのルール作りが必要である。

・昆虫食として大切なのは食品としての表示であるが、日本では昆虫の食品規制は見当たらない。

・昆虫食ビジネス業界の組織化、情報開示、啓発活動が必要であり、信頼性向上への見える化として JGAP、JAS 規格等の制定も必要である。

講演会の様子

大豆の自給率はカロリーベースで 26%（出典：農林水産省ウェブサイト、令和３年度数値）ですが、実需者からの要望が一層高まるかもしれません。また、昆虫食は国内でどれだけ普及していくのか分かりませんが、普及状況によっては、農業分野でも飼育に係る制度の整備や技術支援等の対応が必要になることが考えられます。今後も、こうした最新情報の把握に努めていきたいと思います。

フラワーページ

「フューネラルビジネスフェア 2023」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2023 年 6 月 20 日（火）～21 日（水）に第 26 回 葬祭サービス・ライフエンディングサポートシステムの総合展示会＆シンポジウムである「フューネラルビジネスフェア 2023」（主催：綜合ユニコム株式会社）が横浜市のパシフィコ横浜で開催されました。各種葬具や業務支援等の葬祭サービス産業におけるフューネラルフラワーを中心に紹介します。

１　シンポジウム講座「生花祭壇設営講習」

フューネラル・フラワー技能検定協会の指導により、輪菊やスプレーマム、小菊を使用して、猫や風等をイメージしたデザイン性のある生花祭壇を設営する実技講習（120 分間上級者向け）が開催されました。

指導協力をしていた株式会社ユー花園によると、近年は、白木祭壇より、こだわりのある生花祭壇を選ばれることが多くなってきており、需要に応えるために、質の高い生花祭壇を提供できることが、生花業界には必要となってきているそうです。

講習では、カタログどおりの生花祭壇の設営ができ、将来的には施主の要望を汲み取ったデザインの提案までできる技術の習得を目的としており、受講者は菊の角度や間隔を細かく測りながら生花祭壇の設営に真剣に取り組んでいました。

なお、講習では生花祭壇で使用しやすい菊品種の例として、一番花（いちばんか）が上を向いており、ラインを取りやすいスプレーマム「セイヒラリー」や、茎がしっかりして、花つきも良いスプレーマム「マライカ」が挙げられていました。

花祭壇設営講習の題材「猫の祭壇」

デザイン性のある祭壇

２　オリジナルデザインの生花祭壇の展示

株式会社フォーシーズンズは、オリジナルデザインの生花祭壇の設営、生花商品の企画・制作を行っています。

同社の近年の動向として、葬儀のイメージがある菊類を使用しないで、ブライダル調の生花祭壇にしてほしいという要望が増えているそうです。具体的には、生花祭壇のカタログを見て、菊をカーネーションに変えてほしい、トルコキキョウ、バラ、ダリア等を使用したカラフルで華やかな葬儀にしたい等という要望があるそうです。

バラ、コチョウラン等を使用した華やかな生花祭壇の展示

３　アートフラワー（造花）の展示

有限会社和光造花製作所は、アートフラワーを製造し、国内やアメリカ、ヨーロッパ等、海外への販売も行っています。

同社のアートフラワーは、滑らかさや艶感があり、染色により色飛びもなく、生花と見分けが付かないレベルとなっています。実際に近距離で確認しても生花との見分けは難しく、生花と組み合わせて配置すると見分けることはできませんでした。

同社の近年の動向として、小規模な家族葬儀が増えてきている中で、生花と造花を組み合わせる需要は増えてきており、ブライダルでも同様だそうです。また、生花祭壇の動向と同様に洋花の造花を使用した華やかな祭壇も増えてきています。

アートフラワーの特徴は、造花の品質が向上しているため、生花と遜色ないレベルで花祭壇のボリュームアップができることです。また、生花と比較して安い価格で提供できるため、施主の予算と要望との兼ね合いで造花も選ばれています。

また、造花ならではのメリットを生かした使用として、１セットが小さい造花を組み合わせて使用する組換式造花があります。セットを組み合わせることで数十通りのデザインを作り出すことができることや、生花と組み合わせることが可能です。また、運搬・設置が容易であり、祭壇制作がマニュアルどおりに設置することができます。

全てアートフラワーを使用して制作した華やかな花祭壇

愛　知　産　青　果　物　の　動　向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並　：±１％台以下
わずか　：±２％台以内
や　や　：±３～５％台
かなり　：±６～15％台
大　幅　：±１６％以上

○　名古屋市中央卸売市場（品目：アールスメロン）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	愛知産	前年主要産地（上位３産地）
2022年実績	１，０１８	２３５（２４％）	８８７	５０８	静岡（３６％） 愛知（２３％） 熊本（１８％）
2023年見通し	１，０００	－	９００	－	

概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
静岡、愛知、熊本からの入荷が中心となる。作付面積は、年々、高齢化等により減少傾向である。生育順調であり、大玉傾向である。本県産については、例年通り８月の旧盆前にピークとなる見込み。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。	重油価格の高騰で、食品全般の値上げへ影響が出ているので、消費者の果実への購買意欲の低下が懸念される。 売場を確保するという意味でも、今まで以上にきめ細やかな情報提供をいただきたい。 また、産地や農協との情報共有も密に行い、販売に活かしていきたい。

○　東京都中央卸売市場（品目：とうがん）

	入荷量（t）	うち愛知産	卸売価格（円/kg）	愛知産	前年主要産地（上位３産地）
2022年実績	１，９７２	６００（３２％）	１６５	１７２	愛知　（３０％） 沖縄　（２０％） 神奈川（２０％）
2023年見通し	２，０５０	－	１６０	－	

概要と見通し	卸売市場から産地への要望・提言等
前年は沖縄産が作柄不良で切り上がりが早く高値の開始であった。本年は台風の影響でスポット的な不足はあったが、静岡産の出荷が例年よりも大幅に前進したため、相場への影響は限定的であった。 本県の作付面積は横ばいで、これまでの生育は平年並であるが、線状降水帯による豪雨の影響が今後出る可能性がある。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。	愛知産の品質評価は非常に高いため、引き続き形や色揃えをしっかりと整えるなど、品質維持に努めてほしい。

名古屋・東京市場における青果物の７月の見通し

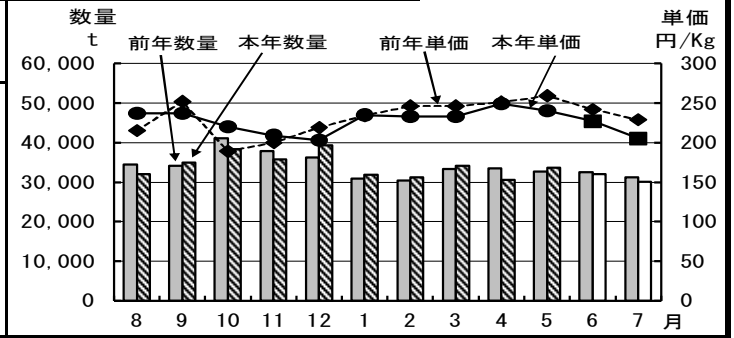
名古屋市中央卸売市場

６月１５日 現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

野菜計

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	２９，２１２	２４２	216	215	208	長野 28%
2019年	３０，８４２	２２２	215	246	265	北海道 11%
2020年	３０，６６８	２８１	217	226	221	兵庫 11%
2021年	３５，６０２	２０８	206	207	211	群馬 8%
2022年	３１，２５０	２２９	223	237	230	愛知 7%
５ヵ年平均	３１，５１５	２３６	－	－	－	
2023年見通し	３１，０００	２１７	－	－	－	

前年及び本年の入荷量・価格の動き



産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

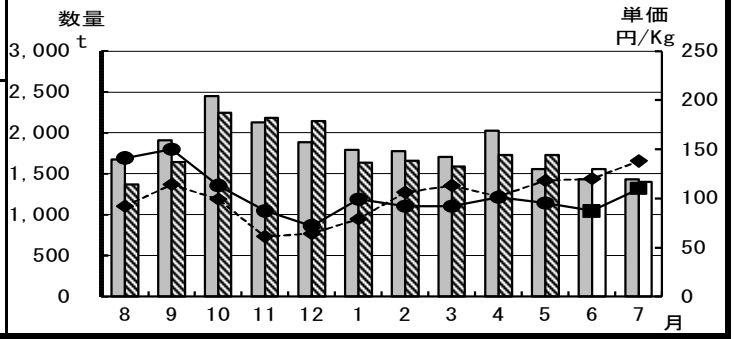
長野、北海道、兵庫などから入荷する。前年よりも少ない入荷を見込む品目が多くあるが、概ね順調な生育予想。

入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。

だいこん

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	１，２５２	１１８	87	142	141	青森 51%
2019年	１，５２８	７５	75	85	72	北海道 31%
2020年	１，４９０	１１５	118	114	122	岐阜 16%
2021年	１，６２３	９４	109	85	93	長野 3%
2022年	１，４３４	１３８	114	151	156	
５ヵ年平均	１，４６５	１０７	101	114	115	
2023年見通し	１，４００	１１０	110	110	110	

前年及び本年の入荷量・価格の動き



産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

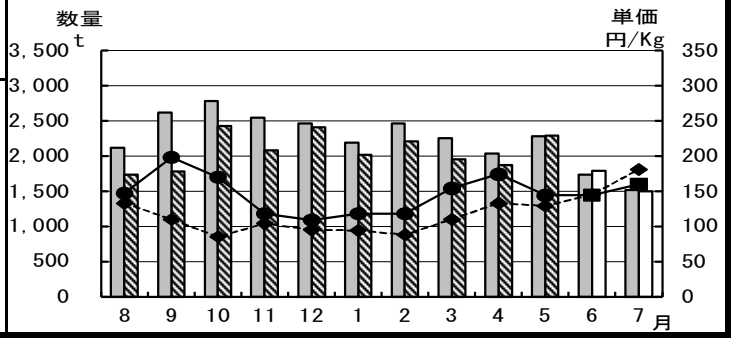
青森、北海道を中心に入荷する。北海道は中旬頃から各地出揃い、青森は人参に切り替わる産地もあり、やや出荷が減る見込み。消費は暑さで鈍い見通し。

入荷量は前年をわずかに下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。

にんじん

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	１，５１４	１５７	130	176	161	青森 57%
2019年	１，７７２	１１９	110	122	124	北海道 33%
2020年	１，９５７	２９４	266	275	332	熊本 4%
2021年	１，８７６	１０９	108	107	113	
2022年	１，５１８	１８１	166	201	180	
５ヵ年平均	１，７２７	１７４	158	177	185	
2023年見通し	１，５００	１６０	160	160	160	

前年及び本年の入荷量・価格の動き



産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

青森、北海道を中心に入荷する。今年度は生育良く、前進出荷になる見込み。上旬、中旬は順調な出荷が見込めるが、下旬は早く始まる分だけ切り上がりが早い見通し。

入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。

注）「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

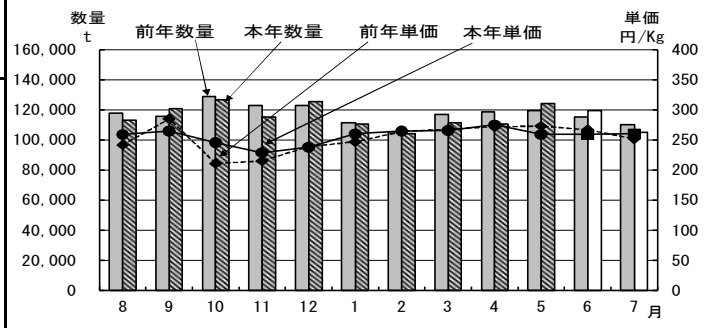
東京都中央卸売市場

6月30日 現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

野菜計

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	１１７，７３５	２６９	250	266	292	群馬 17%
2019年	１２０，３０２	２４３	233	252	243	長野 17%
2020年	１１４，９２５	３０５	285	294	333	茨城 11%
2021年	１２１，４２６	２３０	234	227	230	北海道 9%
2022年	１１０，１６４	２５２	247	256	252	青森 7%
５ヵ年平均	１１６，９１０	２５９	－	－	－	
2023年見通し	１０５，０００	２６０	－	－	－	

前年及び本年の入荷量・価格の動き



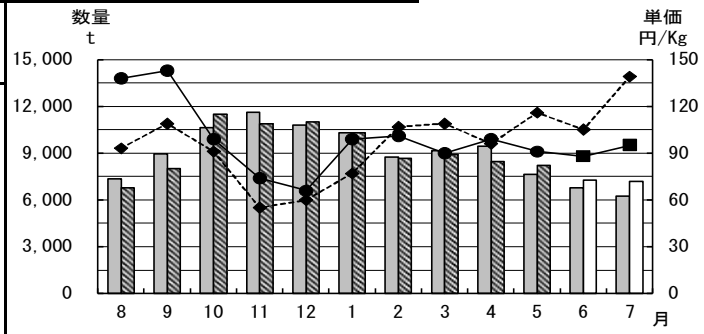
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
群馬産キャベツ、長野産レタスの入荷が本格化。葉物類は高温多雨の影響が懸念される。下旬に北海道産たまねぎの入荷開始。
【概況見通し】
入荷量：前年をやや下回る。（▲4.7%）
価　格：前年をやや上回る。（＋3.2%）

だいこん

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	７，１４８	１２１	89	136	138	北海道 51%
2019年	８，７９０	７６	77	79	70	青森 37%
2020年	７，４７７	１１４	114	112	116	群馬 5%
2021年	７，２４０	９０	106	79	85	神奈川 3%
2022年	６，２３１	１３９	110	158	149	岩手 3%
５ヵ年平均	７，３７７	１０６	98	110	109	
2023年見通し	７，２００	９５	90	95	100	

前年及び本年の入荷量・価格の動き



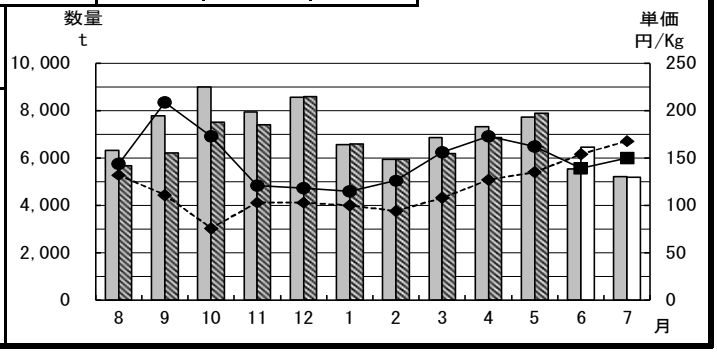
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
入荷の主体となる北日本産は、昨年は不作であったが、今作の生育は問題なし。北海道産の入荷が本格化、潤沢な量を見込む。
【概況見通し】
入荷量：前年をかなり上回る。（＋15.6%）
価　格：前年を大幅に下回る。（▲31.7%）

にんじん

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	５，８８６	１４５	118	156	161	青森 54%
2019年	６，２６６	１１４	105	112	125	北海道 30%
2020年	５，７５３	２７２	250	254	304	千葉 11%
2021年	６，０５９	１０５	106	104	105	中国 2%
2022年	５，２０７	１６８	155	179	171	埼玉 1%
５ヵ年平均	５，８３４	１５９	145	159	172	
2023年見通し	５，２００	１５０	145	155	150	

前年及び本年の入荷量・価格の動き



産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
青森産、北海道産の入荷が本格化する。両産地とも生育順調で、北海道産の生育はわずかに前進傾向である。
【概況見通し】
入荷量：前年並。（▲0.1%）
価　格：前年をかなり下回る。（▲10.7%）

名古屋市中央卸売市場

６月１５日 現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

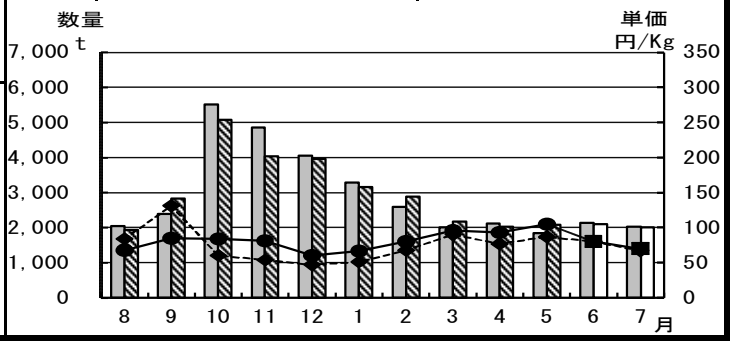
はくさい

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
はくさい	2018年	１，６１６	７７	66	68	105	長野 100%
	2019年	２，０８０	６６	50	65	88	
	2020年	１，９６８	１０３	78	95	139	
	2021年	２，２７０	６３	59	63	68	
	2022年	２，０２２	６７	69	66	66	
	５ヵ年平均	１，９９１	７５	64	71	92	
	2023年見通し	２，０００	７０	70	70	70	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

長野からほぼ全量を入荷する。概ね順調な生育で、漬物、加工業務については、需要はあるものの、予約、契約中心の仕入れ市場の販売苦戦が予想される。
入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。

前年及び本年の入荷量・価格の動き



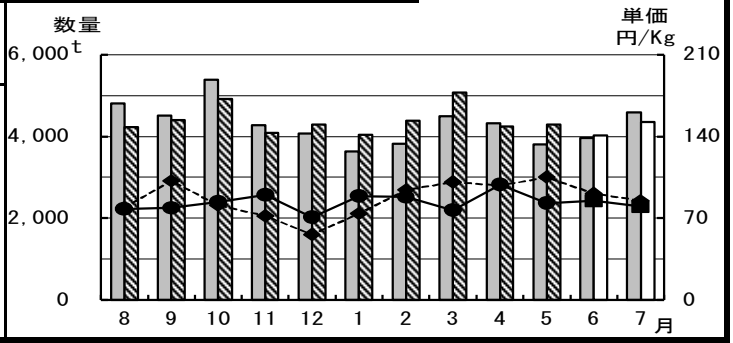
キャベツ

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
キャベツ	2018年	３，８２１	１０２	91	87	130	群馬 47%
	2019年	３，８９９	７６	73	75	81	長野 29%
	2020年	３，９２５	１０１	89	88	129	茨城 9%
	2021年	４，９６５	７６	79	71	80	愛知 7%
	2022年	４，５８４	８５	92	89	78	北海道 2%
	５ヵ年平均	４，２３９	８７	85	82	98	
	2023年見通し	４，３５０	８０	90	80	70	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

群馬、長野を中心に、茨城などから入荷する。茨城、愛知は切り上がりが早く、中旬以降に増加する見込み。
入荷量、価格ともに前年をやや下回る見込み。

前年及び本年の入荷量・価格の動き



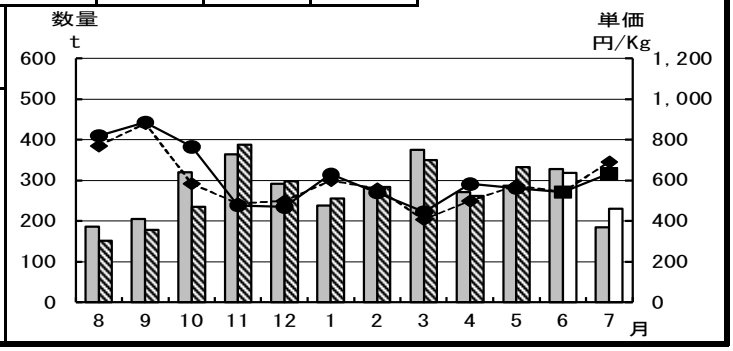
ほうれんそう

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
ほうれんそう	2018年	２３１	５６８	525	624	582	岐阜 88%
	2019年	２０４	７５９	698	745	847	茨城 5%
	2020年	２４５	６００	513	652	745	静岡 3%
	2021年	２４５	６００	513	652	745	長野 3%
	2022年	１８４	６９２	647	763	729	愛知 1%
	５ヵ年平均	２２２	６３８	572	682	727	
	2023年見通し	２３０	６３３	550	650	700	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

岐阜を中心に入荷する。土壌消毒明けで出荷量は一時回復するが、その後不安定な出荷となる見通し。全進出荷により、7月前半は少ない入荷となる見込み。
入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。

前年及び本年の入荷量・価格の動き



東京都中央卸売市場

6月30日 現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

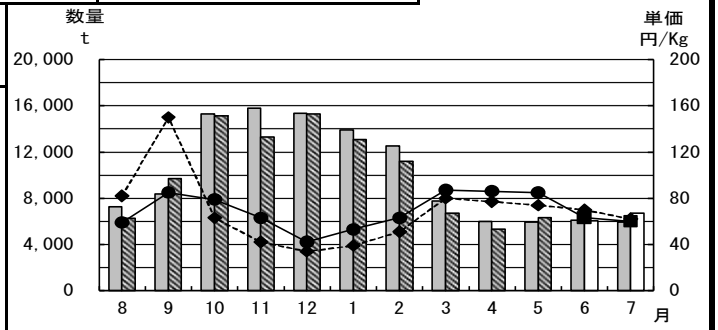
はくさい

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）	
はくさい	2018年	6，736	75	63	61	108	長野	89%
	2019年	7，566	66	51	64	86	群馬	9%
	2020年	7，094	98	72	90	129	茨城	2%
	2021年	6，539	59	57	59	61		
	2022年	5，950	62	65	61	59		
	5ヵ年平均	6，777	72	61	67	90		
	2023年見通し	6，700	60	55	60	65		

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
長野産主体の入荷で、潤沢な量が見込まれる。長野産、群馬産ともに生育順調で、一時的に荷動きが鈍くなる可能性がある。
【概況見通し】
入荷量：前年をかなり上回る。（＋12.6%）
価　格：前年をやや下回る。（▲3.2%）

前年及び本年の入荷量・価格の動き



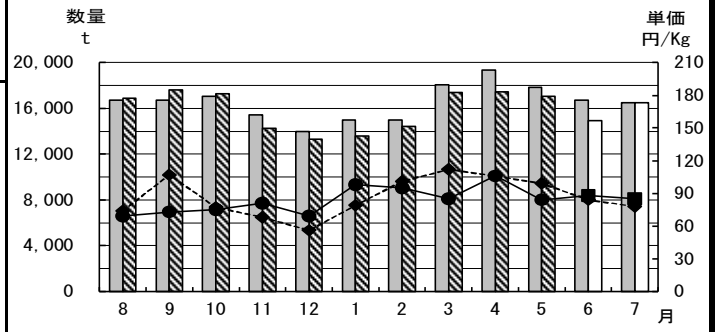
キャベツ

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）	
キャベツ	2018年	15，476	102	85	84	137	群馬	68%
	2019年	16，630	72	71	72	72	岩手	12%
	2020年	16，749	99	87	83	123	長野	8%
	2021年	17，325	71	82	61	71	千葉	6%
	2022年	16，508	78	84	81	70	茨城	4%
	5ヵ年平均	16，538	84	82	76	94		
	2023年見通し	16，500	85	80	85	90		

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
群馬産、岩手産、長野産はいずれも生育順調、入荷は7月がピークとなる。関東産の残量もあり全体的に十分な入荷量となる。
【概況見通し】
入荷量：前年並。（▲0.05%）
価　格：前年をかなり上回る。（＋9.0%）

前年及び本年の入荷量・価格の動き



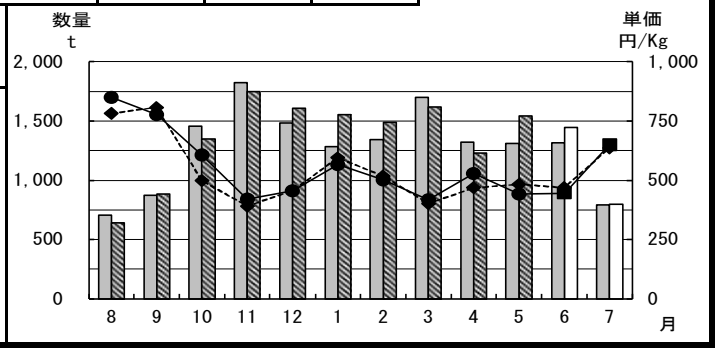
ほうれんそう

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）	
ほうれんそう	2018年	803	677	542	724	818	群馬	36%
	2019年	976	547	482	622	537	栃木	29%
	2020年	914	714	588	752	818	茨城	17%
	2021年	960	560	440	572	741	岩手	6%
	2022年	791	637	551	695	670	岐阜	5%
	5ヵ年平均	889	624	518	669	713		
	2023年見通し	800	650	700	650	600		

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
入荷の主体となる群馬産、栃木産、茨城産は、6月の台風や大雨でほ場被害や播種へ影響があり、前年同様に入荷量は少ない。
【概況見通し】
入荷量：前年並。（＋1.1%）
価　格：前年をわずかに上回る。（＋2.0%）

前年及び本年の入荷量・価格の動き



名古屋市中央卸売市場

６月１５日 現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

ねぎ

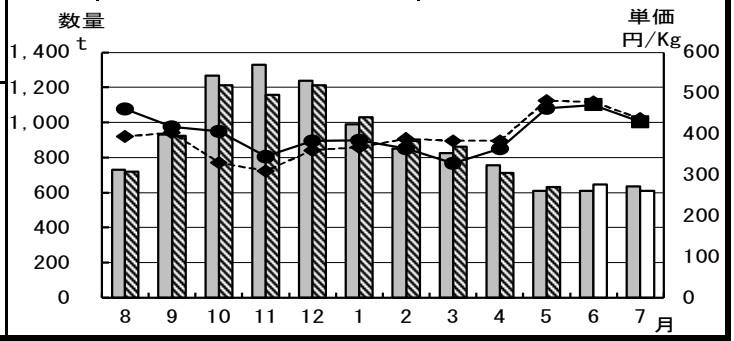
区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	５２４	４６１	433	503	450	大分 29%
2019年	５８５	４１８	418	422	420	北海道 12%
2020年	５１６	６３１	557	672	662	茨城 12%
2021年	６５８	４０１	396	398	409	愛知 11%
2022年	６３５	４３８	407	467	445	静岡 9%
５ヵ年平均	５８４	４６４	438	485	471	
2023年見通し	６１０	４３０	430	430	430	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

大分、北海道、茨城などから入荷する。愛知は、夏ねぎのピークがすぎ、７月末ごろから減少傾向。白ねぎについて、静岡県産は中～下旬ごろ、大分県産は７月末ごろに夏ねぎは終了となる見込み。

入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。

前年及び本年の入荷量・価格の動き



レタス

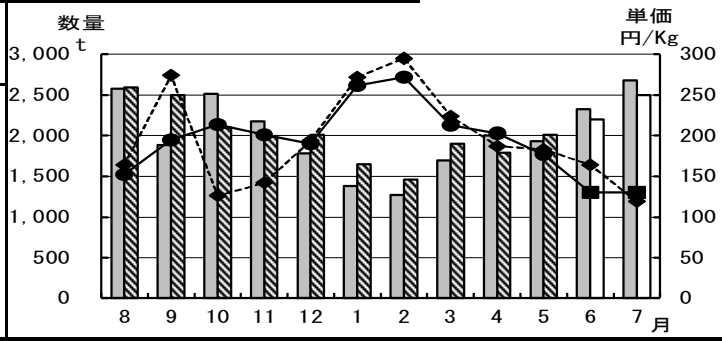
区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	２，６８７	１５６	122	137	211	長野 100%
2019年	２，５３７	１３５	114	132	165	
2020年	２，４９３	１７４	123	157	252	
2021年	２，４８６	１２８	116	135	156	
2022年	２，６８４	１１９	120	121	129	
５ヵ年平均	２，５７８	１４２	119	136	182	
2023年見通し	２，５００	１３０	120	130	140	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

長野からほぼ全量を入荷する。高冷地は、ピークとなり順調な出荷が予想される。L中心の出荷見込みで、天候良好であれば大玉比率upが見込まれる。

入荷量はかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。

前年及び本年の入荷量・価格の動き



きゅうり

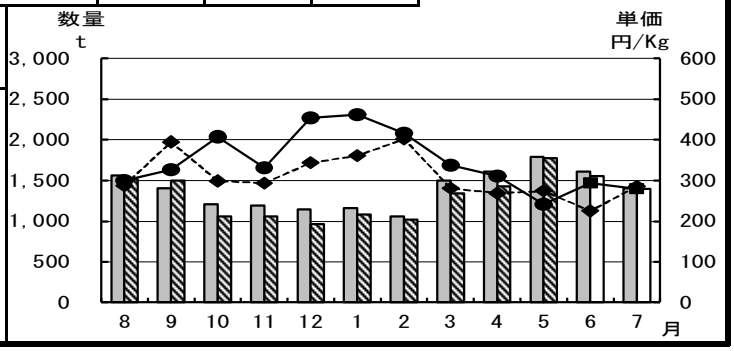
区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	１，４３８	３５０	291	390	363	長野 56%
2019年	１，３９７	３０９	286	351	288	北海道 27%
2020年	１，３７３	３８７	345	375	433	愛知 6%
2021年	１，７１９	２１８	199	241	219	福島 2%
2022年	１，４０７	２８６	246	314	294	山形 2%
５ヵ年平均	１，４６７	３０６	270	330	315	
2023年見通し	１，４００	２８０	240	300	300	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

長野、北海道を中心に入荷する。冬春産地が上旬で終了し、中旬から下旬に向けて夏秋産地の収量が増加する見通し。長野、北海道等は夏秋中心の販売となる見込み。

入荷量は前年並で、価格は安値だった前年をわずかに下回る見込み。

前年及び本年の入荷量・価格の動き



東京都中央卸売市場

6月30日 現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

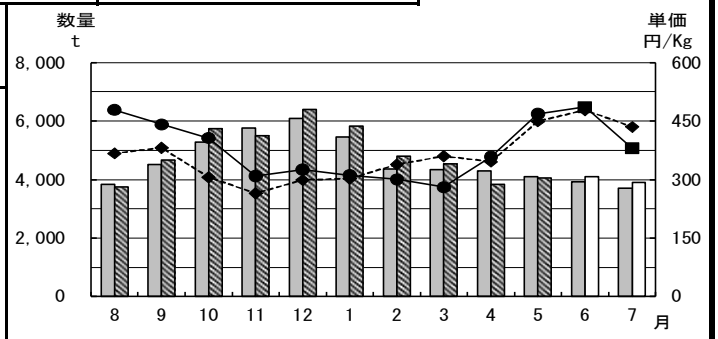
ねぎ

品目名	区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
ねぎ	2018年	3，978	413	382	430	409	茨城 53%
	2019年	4，181	402	426	431	348	千葉 14%
	2020年	3，652	577	536	631	566	栃木 4%
	2021年	3，995	373	428	368	326	秋田 4%
	2022年	3，700	435	438	469	403	福岡 4%
	5ヵ年平均	3，901	437	440	463	407	
	2023年見通し	3，900	380	400	370	370	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
茨城産、千葉産が主体の入荷であるが、入荷は7月末までを見込む。両産地ともに生育順調。前半には東北産の入荷が始まる。
【概況見通し】
入荷量：前年をやや上回る。（＋5.4%）
価　格：前年をかなり下回る。（▲13%）

前年及び本年の入荷量・価格の動き



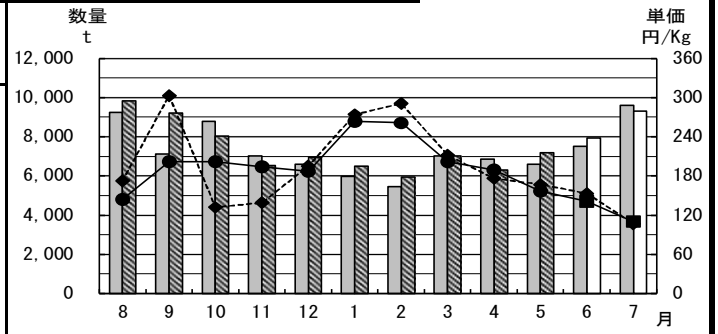
レタス

品目名	区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
レタス	2018年	9，795	149	107	127	218	長野 88%
	2019年	9，123	127	102	120	163	群馬 9%
	2020年	8，306	186	117	164	289	岩手 1%
	2021年	9，125	133	106	131	160	千葉 1%
	2022年	9，603	107	107	102	111	
	5ヵ年平均	9，190	139	108	128	186	
	2023年見通し	9，300	110	100	110	120	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
入荷の主体となる長野産、群馬産は高温多雨の影響で一部に生育不揃いがみられるが、十分な入荷が見込まれる。
【概況見通し】
入荷量：前年をやや下回る。（▲3.2%）
価　格：前年をわずかに上回る。（＋2.8%）

前年及び本年の入荷量・価格の動き



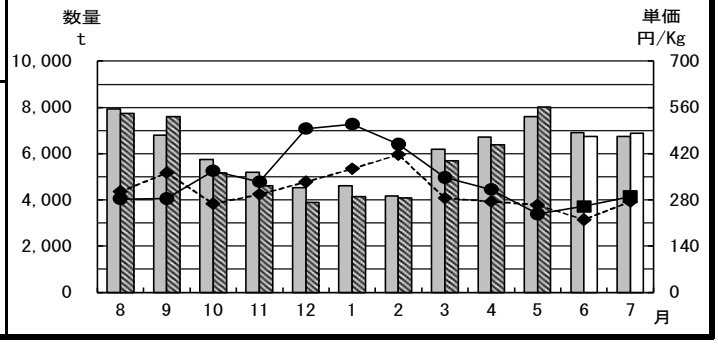
きゅうり

品目名	区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
きゅうり	2018年	7，448	355	312	441	323	福島 41%
	2019年	6，595	320	306	439	236	岩手 12%
	2020年	6，625	380	339	380	412	秋田 10%
	2021年	8，177	202	191	226	193	群馬 8%
	2022年	6，750	275	259	302	261	山形 5%
	5ヵ年平均	7，119	303	278	354	282	
	2023年見通し	6，900	290	280	310	280	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
入荷の主体となる東北産、関東産に曇雨天の影響はみられるが、生育に問題なし。下旬には東北産の入荷がピークとなる。
【概況見通し】
入荷量：前年をわずかに上回る。（＋2.2%）
価　格：前年をやや上回る。（＋5.5%）

前年及び本年の入荷量・価格の動き



名古屋市中央卸売市場

６月１５日 現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

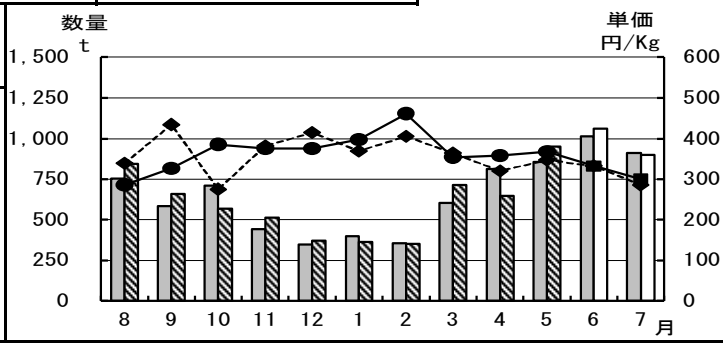
なす

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	８７４	３２２	312	331	331	愛知 30%
2019年	９２２	３２９	289	365	354	宮崎 24%
2020年	８４８	４０５	353	397	476	山梨 13%
2021年	１，０７２	２７８	284	266	273	徳島 13%
2022年	９１３	２８６	276	276	304	熊本 5%
５ヵ年平均	９２６	３２１	301	324	343	
2023年見通し	９００	３００	300	300	300	

産地状況と
入荷量及び卸売価格の概況見通し

愛知を中心に宮崎、山梨などから入荷する。愛知は台風２号により枝が折れている圃場が出たため、今後の天候次第。冬春産地の出荷はほぼ終了見込みで、夏秋産地の出荷は遅れ気味の予想。
入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。

前年及び本年の
入荷量・価格の動き



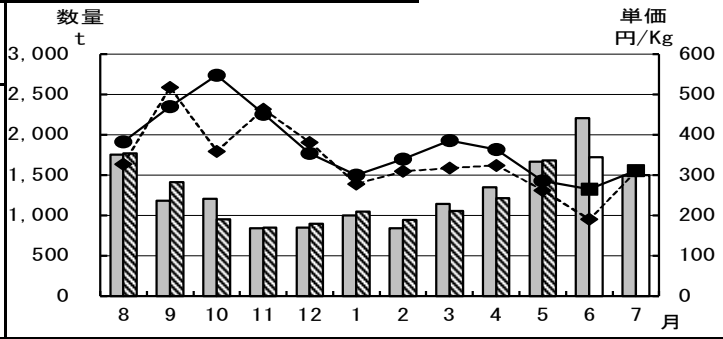
トマト

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	１，６３９	３１３	271	307	358	岐阜 38%
2019年	１，５０５	２９０	258	299	314	愛知 24%
2020年	１，２８３	３６６	355	354	385	北海道 18%
2021年	１，５７８	３１８	349	298	311	大分 7%
2022年	１，４９４	３０９	265	310	348	三重 5%
５ヵ年平均	１，５００	３１８	298	312	342	
2023年見通し	１，５００	３１０	300	300	320	

産地状況と
入荷量及び卸売価格の概況見通し

岐阜、愛知、北海道を中心に入荷する。冬春産地が終盤に向かい、夏秋産地が順々に入荷する見込み。冬春作の終了が早いものの、夏秋作が1週ほど早く出ており、全体量としては平年並から少し多めの予想。
入荷量、価格ともに前年並の見込み。

前年及び本年の
入荷量・価格の動き



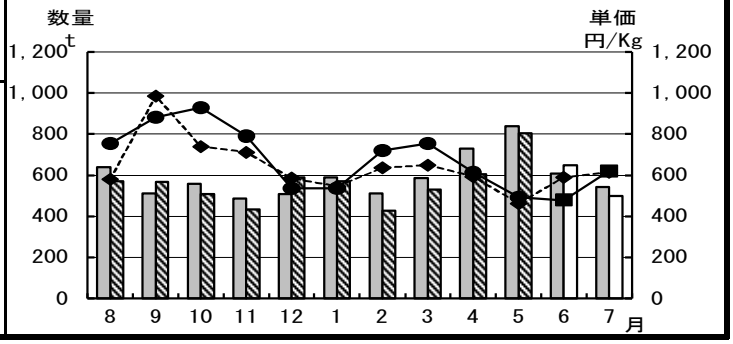
ミニトマト

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
2018年	４０９	７２０	655	712	789	北海道 51%
2019年	５０９	５９２	565	615	603	愛知 17%
2020年	４７３	６８９	575	719	750	茨城 15%
2021年	５５７	６３７	629	681	617	熊本 9%
2022年	５４４	６１４	618	636	595	長野 4%
５ヵ年平均	４９８	６４６	608	670	663	
2023年見通し	５００	６２０	620	620	620	

産地状況と
入荷量及び卸売価格の概況見通し

北海道を中心に愛知、茨城などから入荷する。北海道中心の入荷となり、海の日近辺でピークとなる見込み。冬春作は終了に向かい、減少傾向。
入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。

前年及び本年の
入荷量・価格の動き



東京都中央卸売市場

6月30日 現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

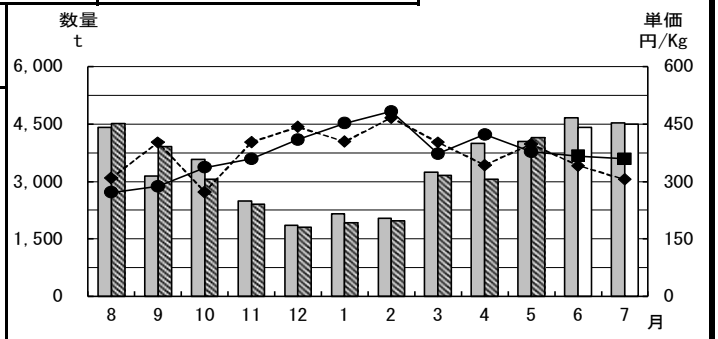
なす

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）	
なす	2018年	5，111	345	343	365	328	群馬	36%
	2019年	3，908	402	335	501	383	茨城	21%
	2020年	3，793	460	408	447	532	栃木	20%
	2021年	4，832	286	305	286	267	高知	4%
	2022年	4，538	306	291	324	302	宮崎	5%
	5ヵ年平均	4，436	354	334	377	354		
	2023年見通し	4，500	360	350	365	365		

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
群馬産、栃木産の入荷量が増える。栃木産は生育に若干遅れあり。高知産、福岡産は終盤となるが入荷量に不足感なし。
【概況見通し】
入荷量：前年並。（▲0.8%）
価　格：前年を大幅に上回る。（＋17.6%）

前年及び本年の入荷量・価格の動き



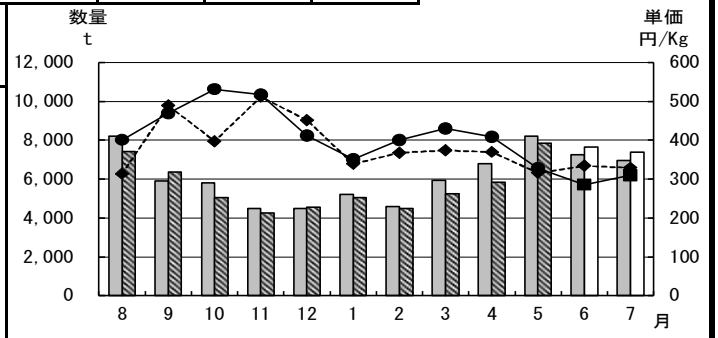
トマト

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）	
トマト	2018年	8，158	333	303	339	356	北海道	18%
	2019年	7，312	308	286	331	310	岩手	12%
	2020年	6，910	363	376	337	374	栃木	11%
	2021年	8，005	321	374	303	295	青森	10%
	2022年	6，971	329	288	340	366	群馬	6%
	5ヵ年平均	7，471	330	326	330	339		
	2023年見通し	7，400	310	330	300	300		

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
北海道産や東北産が主体の入荷となる。関東産は少ない入荷が続く。各産地に病害虫の発生はなく生育は順調である。
【概況見通し】
入荷量：前年をかなり上回る。（＋6.2%）
価　格：前年をやや下回る。（▲5.8%）

前年及び本年の入荷量・価格の動き



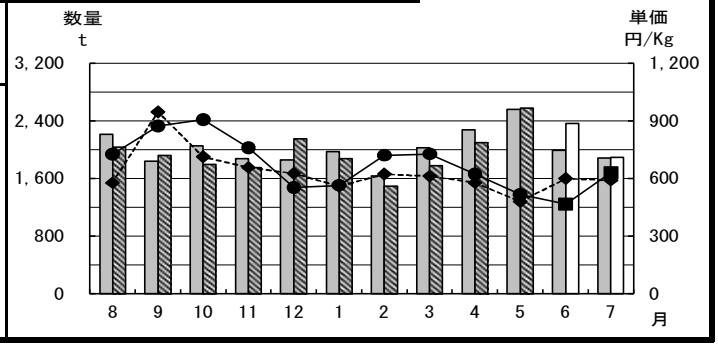
ミニトマト

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）	
ミニトマト	2018年	1，769	674	643	646	731	茨城	27%
	2019年	2，019	570	537	576	593	北海道	13%
	2020年	1，897	651	592	672	684	千葉	12%
	2021年	2，184	604	606	627	585	青森	12%
	2022年	1，891	592	592	571	614	福島	8%
	5ヵ年平均	1，952	616	593	618	638		
	2023年見通し	1，900	630	640	630	620		

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
入荷先は関東産、北海道産、東北産が主体となる。いずれも生育は順調。一部産地でトマトからの転作がみられる。
【概況見通し】
入荷量：前年並。（＋0.5%）
価　格：前年をかなり上回る。（＋6.4%）

前年及び本年の入荷量・価格の動き



名古屋市中央卸売市場

６月１５日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

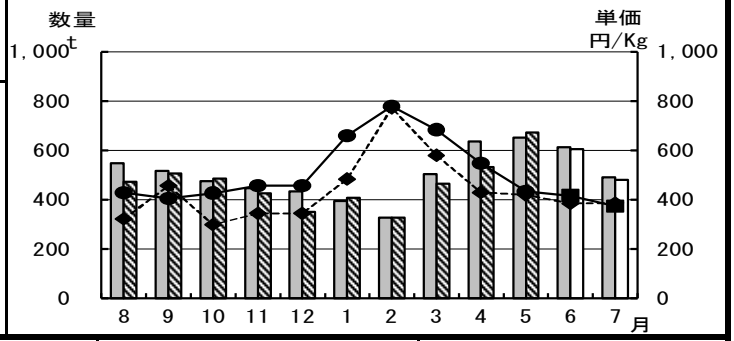
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
ピーマン	2018年	３１１	５１５	481	507	523	茨城 39%
	2019年	４５９	４３７	402	432	449	宮崎 19%
	2020年	４０７	５７９	497	585	600	北海道 18%
	2021年	５３６	３４８	358	378	353	高知 10%
	2022年	４９０	３８７	364	398	429	長野 5%
	５ヵ年平均	４４１	４４１	412	450	460	
	2023年見通し	４８０	３７３	360	380	380	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

茨城、宮崎、北海道を中心に入荷する。茨城産、北海道産は順調な入荷予想。宮崎産は天候が悪く入荷が不安定だが、7月は回復予想。

入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。

前年及び本年の入荷量・価格の動き



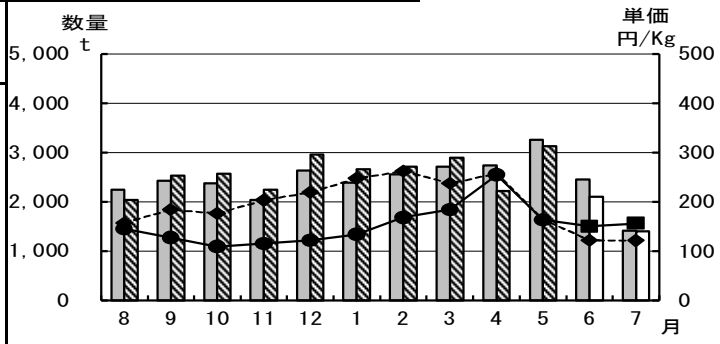
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
ばれいしょ	2018年	１，６８５	８０	67	84	91	静岡 45%
	2019年	１，５２３	１７３	165	178	173	北海道 21%
	2020年	１，３４７	３９５	404	418	380	長崎 10%
	2021年	１，６９６	１４４	137	153	143	愛知 10%
	2022年	１，４１０	１２１	103	115	135	茨城 5%
	５ヵ年平均	１，５３２	１７６	168	182	178	
	2023年見通し	１，４００	１５６	156	156	156	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

静岡、北海道、長崎を中心に入荷する。長崎は６月で終了予定。静岡は６月の大雨の影響で数量が減少し、Ｌ中心となる見込み。北海道は７月下旬より販売予定だが、今後の天候次第で８月にずれる可能性あり。

入荷量は前年並で、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。

前年及び本年の入荷量・価格の動き



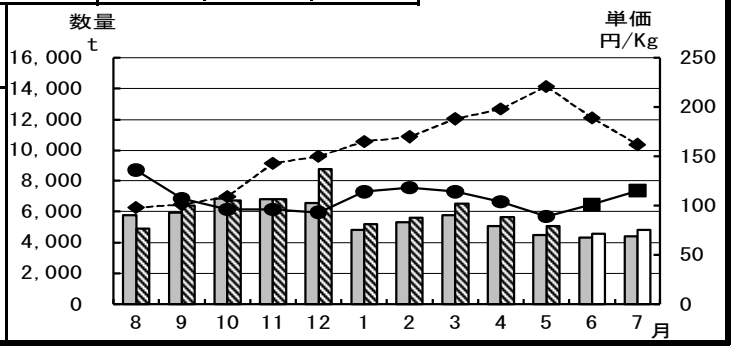
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
たまねぎ	2018年	４，５３２	８８	80	99	93	兵庫 75%
	2019年	４，７３９	８１	81	84	79	北海道 8%
	2020年	４，９９３	１２６	112	134	129	富山 8%
	2021年	５，８７６	１０６	105	116	100	愛知 3%
	2022年	４，４０８	１６２	161	169	160	長野 3%
	５ヵ年平均	４，９１０	１１２	107	120	111	
	2023年見通し	４，８００	１１５	100	115	120	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

兵庫を中心に北海道、富山などから入荷する。各産地順調な肥大が見込まれる。L中心と大玉傾向となる見込みだが、降雨が多く今後の品質が心配。

入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。

前年及び本年の入荷量・価格の動き



東京都中央卸売市場

6月30日 現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

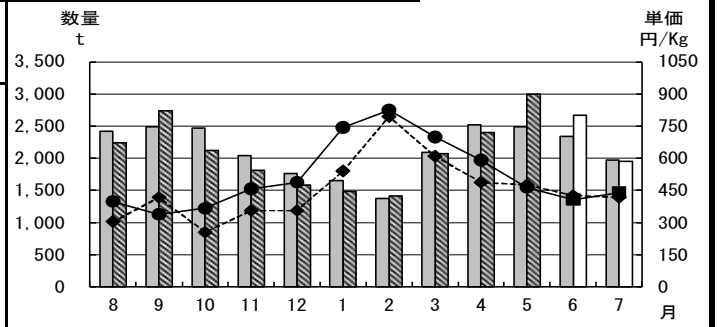
ピーマン

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）	
2018年	1，789	492	500	485	491	茨城	52%
2019年	1，880	459	396	488	504	岩手	31%
2020年	1，970	607	544	615	665	福島	6%
2021年	2，185	349	346	362	339	青森	4%
2022年	1，970	417	356	440	451	宮崎	2%
5ヵ年平均	1，959	462	426	475	487		
2023年見通し	1，950	440	480	440	400		

前年及び本年の入荷量・価格の動き

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
茨城産は曇雨天が生育に影響し入荷量は例年より少ない見込み。東北産の入荷もピークとならず全体的に入荷量は少ない。
【概況見通し】
入荷量：前年並。（▲1.0%）
価　格：前年をやや上回る。（＋5.5%）



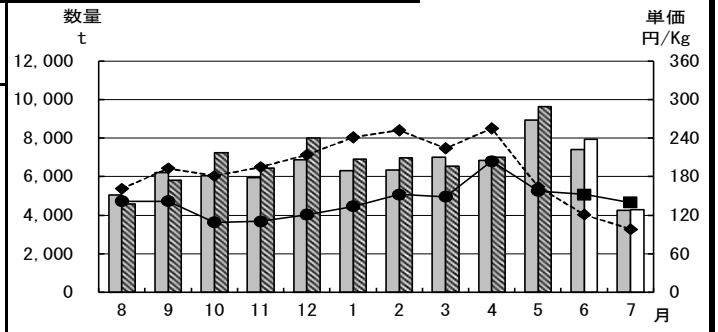
ばれいしょ

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）	
2018年	5，447	73	71	74	74	茨城	30%
2019年	5，068	173	166	180	174	静岡	20%
2020年	4，502	336	344	332	333	長崎	19%
2021年	4，928	139	148	146	123	千葉	16%
2022年	4，265	98	96	94	102	北海道	9%
5ヵ年平均	4，842	161	162	162	158		
2023年見通し	4，300	140	170	130	120		

前年及び本年の入荷量・価格の動き

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
茨城産、静岡産、長崎産が主体の入荷となる。静岡産は６月の台風や大雨で量を減らしていたが７月は回復に向かう。
【概況見通し】
入荷量：前年並。（＋0.8%）
価　格：前年を大幅に上回る。（＋42.9%）



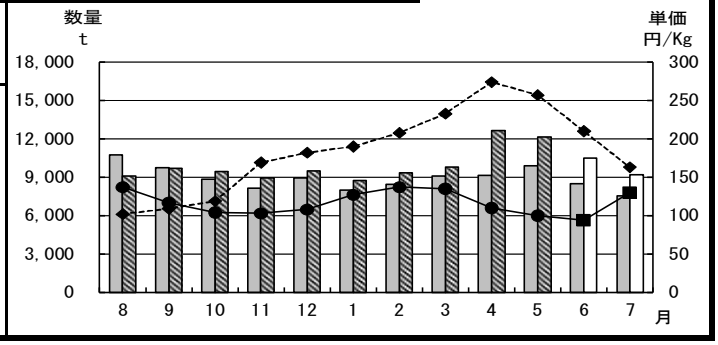
たまねぎ

区分（実績と見通し）	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）	
2018年	8，958	94	88	92	101	兵庫	47%
2019年	9，336	87	84	86	92	佐賀	20%
2020年	10，025	137	114	138	157	富山	5%
2021年	9，685	117	119	121	111	北海道	5%
2022年	7，543	163	179	155	158	香川	4%
5ヵ年平均	9，109	118	115	117	123		
2023年見通し	9，200	130	150	110	130		

前年及び本年の入荷量・価格の動き

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
兵庫産、佐賀産が主体の入荷となる。佐賀産の収穫作業は終了。北海道産の入荷が始まる。入荷のサイズはＬ中心となる。
【概況見通し】
入荷量：前年を大幅に上回る。（＋22.0%）
価　格：前年を大幅に下回る。（▲20.2%）



名古屋市中央卸売市場

※アールスメロンの旬別単価は、データが存在しないため表示しない。

６月１５日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

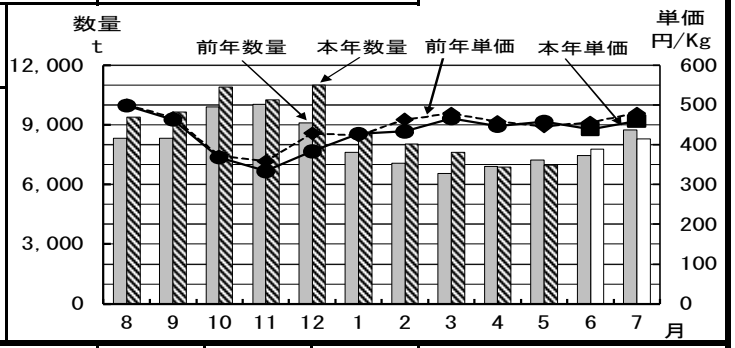
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
果実計	2018年	８，１９２	４４４	435	439	461	フィリピン 20%
	2019年	７，７４１	４３３	442	437	456	愛知 14%
	2020年	７，７９３	４４８	467	442	398	石川 12%
	2021年	９，１４５	４６３	484	443	465	長野 9%
	2022年	８，７５５	４８０	466	466	513	山梨 9%
	５ヵ年平均	８，３２５	４５４	－	－	－	
	2023年見通し	９，２００	４５０	－	－	－	

前年及び本年の入荷量・価格の動き

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

みかん、もも、メロン、すいかなどを中心に入荷する。各品目、高温により前進出荷見込み。作付面積は、今後の天候次第だが、平年並からやや少ない見通し。

入荷量は前年をやや上回り、価格はかなり下回る見込み。



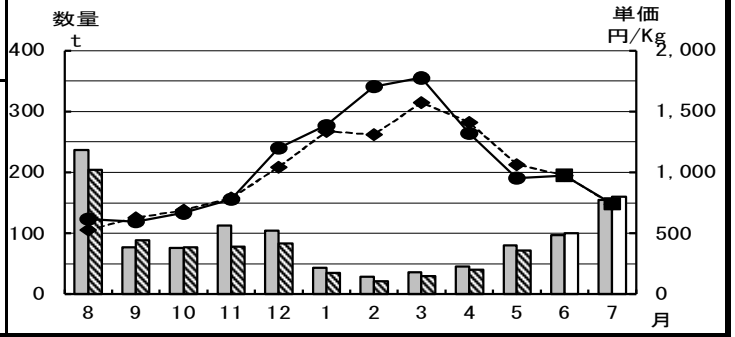
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
アールスメロン	2018年	１６４	６５６	－	－	－	愛知 55%
	2019年	１６０	６２９	－	－	－	静岡 34%
	2020年	１８７	５４９	－	－	－	高知 6%
	2021年	１６４	７４１	－	－	－	茨城 3%
	2022年	１５５	７３８	－	－	－	
	５ヵ年平均	１６６	６５９	－	－	－	
	2023年見通し	１６０	７４０	－	－	－	

前年及び本年の入荷量・価格の動き

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

愛知、静岡を中心に入荷する。作付面積は、今後の天候次第だが、平年並からやや少ない見込み。主な産地は「愛知みなみ豊橋」、「静岡とぴあ」で、８月１日のお盆まで入荷は続く見込み。

入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並の見込み。



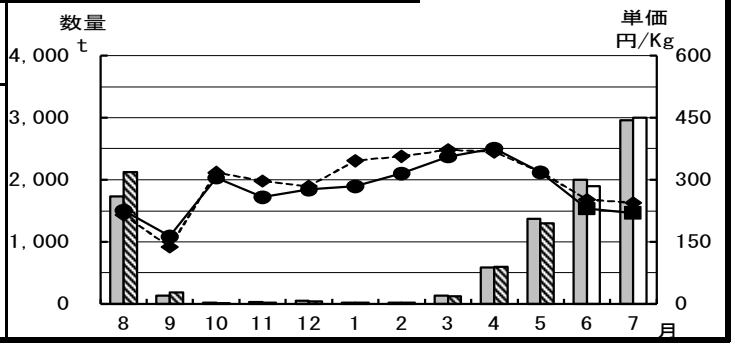
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
すいか	2018年	２，７１３	２１７	211	216	225	石川 35%
	2019年	２，６６４	１６８	197	163	149	長野 21%
	2020年	３，８７６	１８２	216	162	182	愛知 18%
	2021年	３，０５７	２２７	233	219	232	山形 12%
	2022年	２，９５８	２４４	248	240	249	新潟 6%
	５ヵ年平均	３，０５４	２０７	221	198	207	
	2023年見通し	３，０００	２２０	240	200	220	

前年及び本年の入荷量・価格の動き

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

石川、長野、愛知などから入荷する。作付面積は平年並で、生育順調の見込み。石川はやや遅れ気味で、中旬にピークを迎える見込み。長野は上旬から始まる見込み。

入荷量は前年並で、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。



東京都中央卸売市場

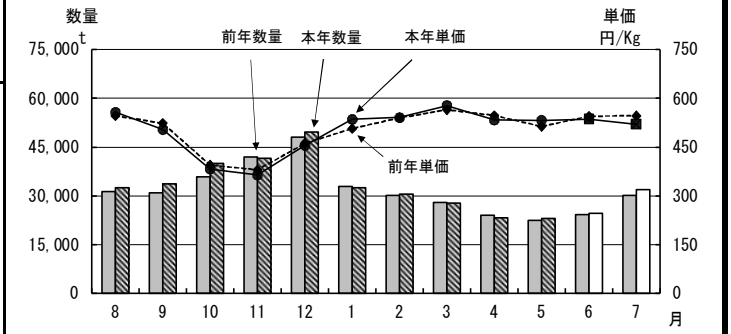
６月３０日現在　　単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円／kg

果実計

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
果実計	2018年	３３，７４２	４６５	488	465	448	山梨 16%
	2019年	３１，２９１	４５３	496	453	413	山形 14%
	2020年	３０，４８０	４８２	521	474	457	千葉 9%
	2021年	３４，７１５	４９７	526	492	479	新潟 7%
	2022年	３０，１４４	５４６	530	565	540	青森 7%
	５ヵ年平均	３２，０７４	４８９	－	－	－	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	2023年見通し	３２，０００	５２０	－	－	－	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
すいか、もも等を中心に入荷。ももは主力山梨の生育は順調で肥大も良好の見込み。なしは福岡を中心に各産地の生育は順調。
【概況見通し】
入荷量：前年をかなり上回る。（+6.2%）
価　格：前年をやや下回る。（▲4.8%）

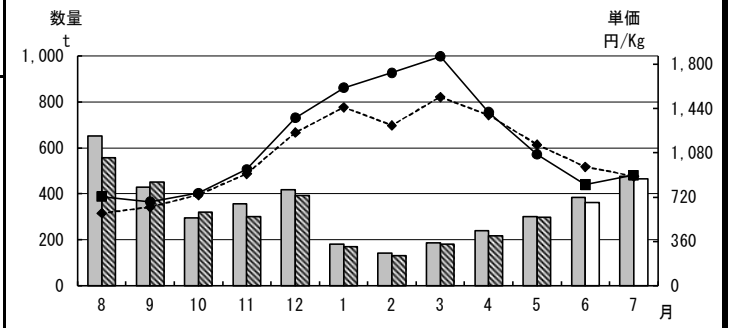


アールスメロン

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
アールスメロン	2018年	４９１	７８８	850	772	733	静岡 49%
	2019年	５２１	７４２	830	762	620	愛知 15%
	2020年	５２５	７０７	766	720	630	茨城 11%
	2021年	４７５	９０４	990	988	745	高知 9%
	2022年	４７７	８９１	1,001	972	712	千葉 7%
	５ヵ年平均	４９８	８０６	887	843	688	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	2023年見通し	４６５	９００	1,000	975	700	

産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
静岡は気温、降水量が平年より高い見込みで天候次第で大玉が増えるか。関東地方は生育、出荷量共に平年並となる見込み。
【概況見通し】
入荷量：前年をわずかに下回る。（▲2.5%）
価　格：前年並。（+1.0%）

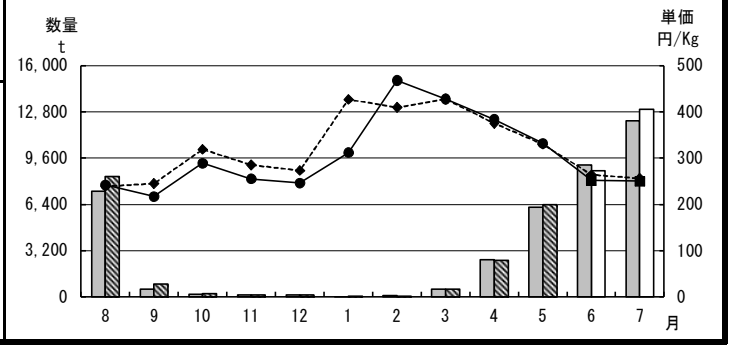


すいか

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	上旬	中旬	下旬	前年主要産地（%）
すいか	2018年	１２，４５８	２３１	249	235	215	山形 21%
	2019年	１０，８７５	１７０	202	161	155	新潟 18%
	2020年	１１，５９０	１８６	218	171	173	千葉 15%
	2021年	１３，０８３	２３７	247	234	234	神奈川 12%
	2022年	１２，１８９	２５６	259	266	246	鳥取 9%
	５ヵ年平均	１２，０３９	２１６	235	213	205	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	2023年見通し	１３，０００	２５０	210	195	195	

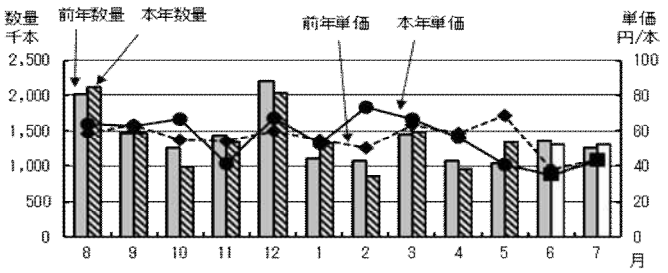
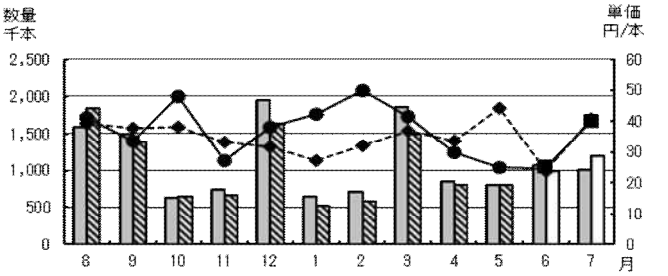
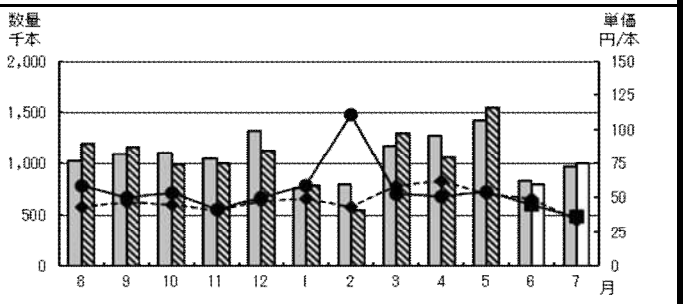
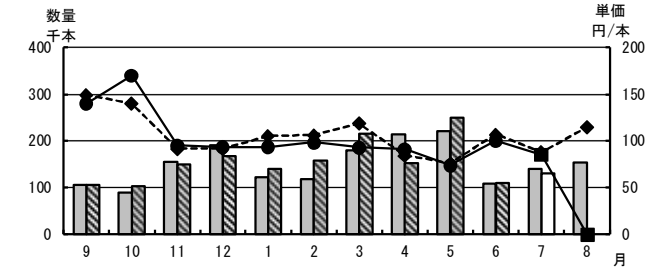
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し

【産地状況】
上旬は千葉、鳥取、下旬は山形がピークを向かえ潤沢な入荷となる見込み。各産地の生育は順調で、品質は良好。
【概況見通し】
入荷量：前年をかなり上回る。（+6.7%）
価　格：前年をわずかに下回る。（▲2.3%）

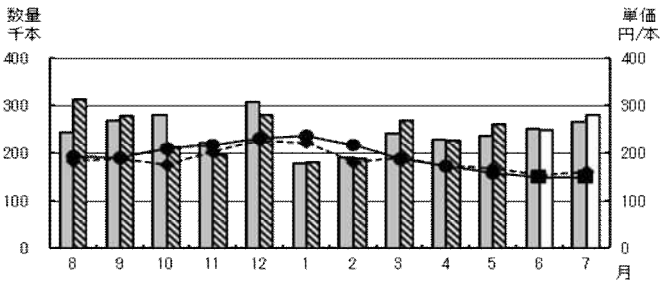
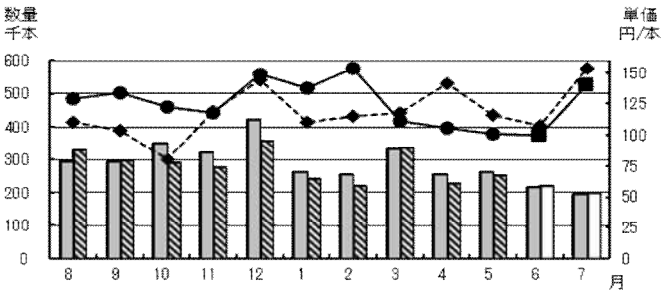
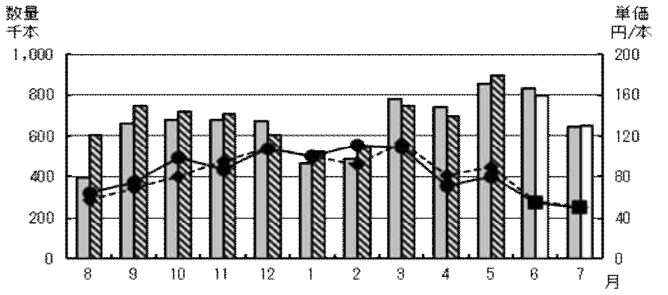
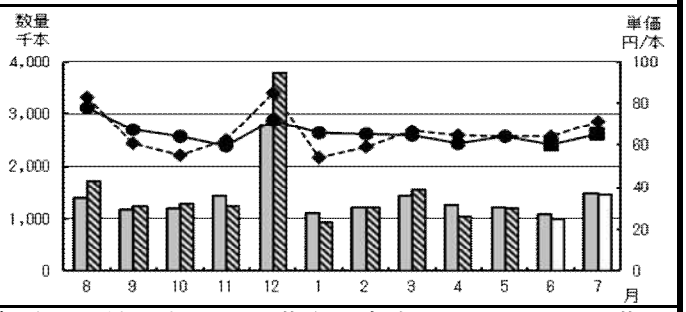


切　花　・　鉢　花　の　７　月　の　見　通　し

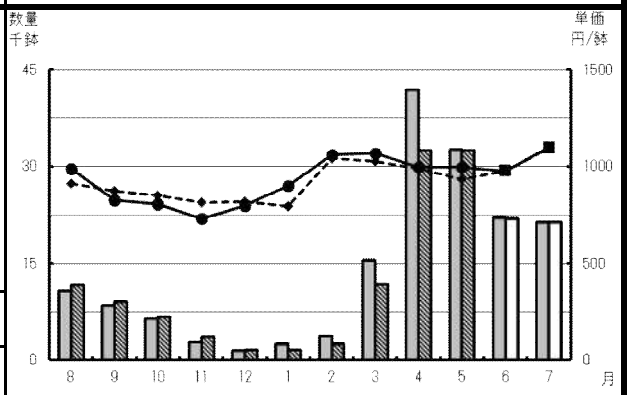
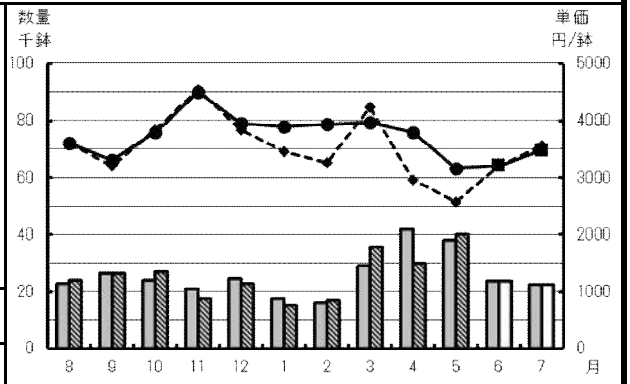
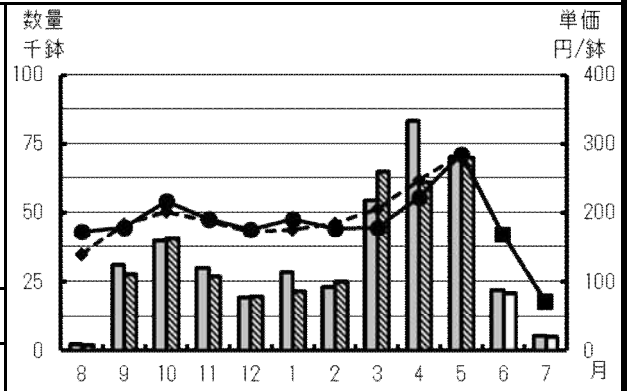
切　花（愛知名港花き地方卸売市場　　６月３０日現在）　　単位：千本、円／本

品目	区分 実績等		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
輪ぎく	実績	2018年	１，３７７	４４	
		2019年	２，００５	３５	
		2020年	１，７４９	４５	
		2021年	１，５９７	３５	
		2022年	１，２５３	４４	
	５ヵ年平均		１，５９６	４０	
	2023年見通し		１，３００	４３	
	概要		愛知、長野、三重から入荷。上旬は新盆需要もあり、入荷量は伸びてくる。中旬は多少落ち着く感じになると思われるが、下旬からは旧盆に向けて数量は増加してくると思われる。		
小ぎく	実績	2018年	１，４９１	３２	
		2019年	１，８５８	２１	
		2020年	１，６７２	３１	
		2021年	１，４６７	２４	
		2022年	１，０１７	４１	
	５ヵ年平均		１，５０１	２９	
	2023年見通し		１，２００	４０	
	概要		愛知、長野、埼玉から入荷。上旬は新盆需要に期待。生育は１週間ほど進んだ状況。雨の影響もあり、病害虫の発生も少しづつ増えてきているが入荷数量は下旬にかけて増加する見込み。		
カーネーション	実績	2018年	１，１１３	４２	
		2019年	１，０７０	４１	
		2020年	１，００５	４５	
		2021年	９７６	４０	
		2022年	９７１	３４	
	５ヵ年平均		１，０２７	４１	
	2023年見通し		１，０００	３６	
	概要		長野、北海道中心。中旬以降１回目のピークが来る予想。コロナの規制が明けてイベントが増え、健勝な販売が見込まれる。		
かすみそう	実績	2018年	１００	１０７	
		2019年	１２９	８５	
		2020年	１０６	９５	
		2021年	１１５	８５	
		2022年	１４０	８８	
	５ヵ年平均		１１８	９１	
	2023年見通し		１３０	８５	
	概要		福島、長野からの入荷となる。上旬は据え置き株のピークとなり、入荷は多く、中旬からは落ち着いてくる見込み。		

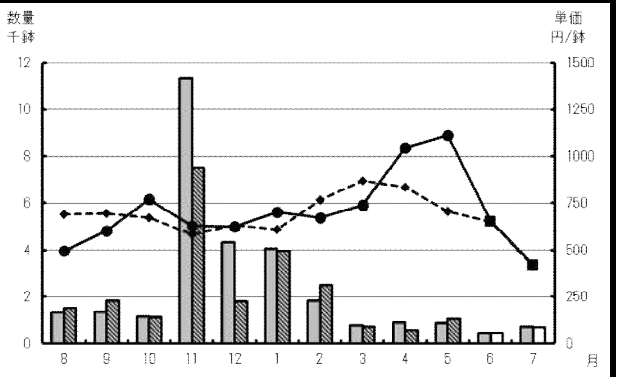
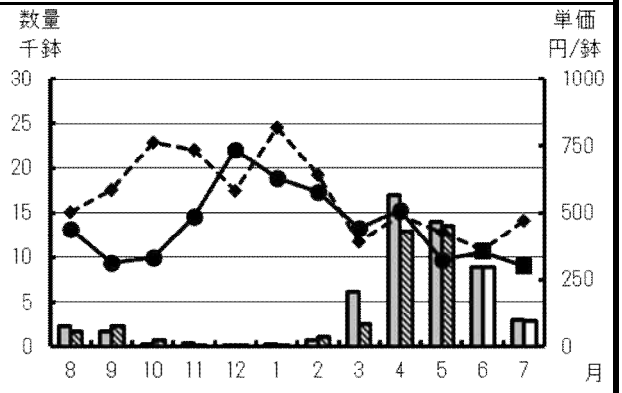
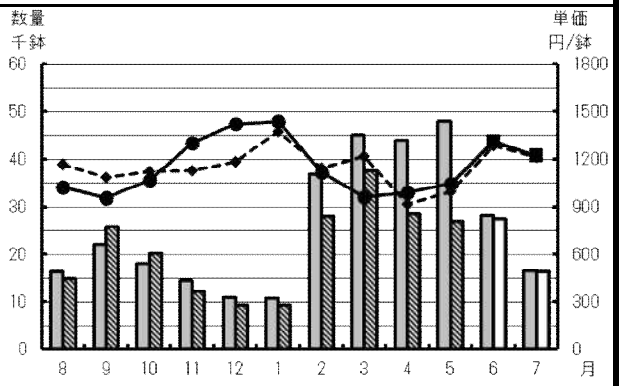
単位：千本、円／本

品目	区分 実績等		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
ゆり	実績	2018年	２９３	１４８	
		2019年	３３４	１４４	
		2020年	３０２	１５２	
		2021年	２７７	１４８	
		2022年	２６５	１６１	
	５ヵ年平均		２９４	１５０	
	2023年見通し		２８０	１５０	
	概要		オリエンタルは新潟、北海道、埼玉、宮崎、高知からの入荷。鉄砲は兵庫、長野、愛媛から入荷となる。入荷は全般的に多くなる見込み。		
洋らん	実績	2018年	３４０	８３	
		2019年	３３３	９２	
		2020年	２３５	１００	
		2021年	２１４	１０６	
		2022年	１９５	１５３	
	５ヵ年平均		２６３	１０３	
	2023年見通し		２００	１４０	
	概要		愛知、静岡、鹿児島の国内産に加え、輸入品が入荷する。デンファレは雨期のため、激減で下旬まで少ない状況が続く。オンシジウムは下旬にかけて少しづつ減少していく。シンピジウムはニュージーランド産が入荷するが、現地価格の上昇で入荷させ辛い状況。カトレアは６月並で推移の見込み。コチョウランは輸入品がコスト割れから出荷を見合わせている農場もあり、国内相場が上昇すれば、増えてくる。		
ばら	実績	2018年	６６５	５０	
		2019年	６６５	４５	
		2020年	５８５	５４	
		2021年	５５７	５１	
		2022年	６４４	５１	
	５ヵ年平均		６２３	５０	
	2023年見通し		６５０	５０	
	概要		愛知、岐阜、三重、山形、長野中心。中旬からは例年通り夏休みに入る産地もあり、入荷量は例年並と予想される。後半からは輸入バラが入荷の予定となっており、国産品の輪の小ささを補う見込み。		
枝もの	実績	2018年	１，４２３	４７	
		2019年	１，５７０	５６	
		2020年	１，４９０	５８	
		2021年	１，３６６	６４	
		2022年	１，４８２	７１	
	５ヵ年平均		１，４６６	５９	
	2023年見通し		１，４６０	６５	
	概要		七夕に向かい、笹の納品が始まる。新盆用の法月などの入荷や国内産ヒペリカムの出荷も始まる。気温の上昇に伴い、ドウダン等の入荷は減少する見込み。		

鉢　花（愛知豊明花き地方卸売市場　　６月23日現在）　　単位：鉢、円／鉢

品目	区分 実績等		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
アンスリウム	実績	2018年	２１，５９２	１，０７８	
		2019年	２３，４４０	９８３	
		2020年	２５，７４８	１，０２０	
		2021年	２３，３９４	９９２	
		2022年	２１，４８０	１，０９５	
	５ヵ年平均		２３，１３１	１，０３１	
	2023年見通し		２１，４００	１，０９８	
	概要		入荷量は前年並か。作付け内容の大きな変更はなく、６号MIXが主体となる。７号以上は、赤・ピンク・白系が主力の色目となる。 前年７月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで１位愛知(83.9%)、２位長崎(14.3%)、３位富山(1.0%)となっている。		
ファレノプシス	実績	2018年	２７，２４５	３，０８２	
		2019年	３６，８２３	２，５０４	
		2020年	２９，３７３	３，２１５	
		2021年	３１，３８７	３，４３９	
		2022年	２２，４８９	３，５５４	
	５ヵ年平均		２９，４６３	３，１１２	
	2023年見通し		２２，４００	３，４８２	
	概要		入荷量は前年より減少か。特にミディー系は減る見込み。近年、７月のお中元需要も少なく単価も厳しいため、入荷量は減少の見込み。気温が高く開花スピードが早いため、大輪、ミディーとも咲き気味より、固めで出荷お願いしたい。 前年７月の主要県の入荷実績は、金額ベースで１位愛知(55.7%)、２位宮崎(7.1%)、３位千葉(6.6%)となっている。		
バラ及びミニバラ	実績	2018年	１１，８２５	７９	
		2019年	１１，９９０	１１７	
		2020年	１３，４４６	１２１	
		2021年	１３，７１５	１０３	
		2022年	５，１４２	７２	
	５ヵ年平均		１１，２２４	１０２	
	2023年見通し		５，０００	７０	
	概要		年々気温上昇に伴い、売れ行きが鈍くなり生産量は減少傾向にある。それに伴い生産量は前年よりさらに減少か。例年通り３～３．５号の小鉢中心の入荷となる。気温の上昇に伴う花持ちなどの問題から販売は厳しく安価で推移する見込み。 前年７月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで１位岐阜(45.2%)、２位愛媛(4.35%)、３位愛知(6.8%)となっている。		

単位：鉢、円／鉢

品目	区分 実績等		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
オンシジウム	実績	2018年	１，４４６	６３３	
		2019年	１，８０６	５５４	
		2020年	１，０７８	７０１	
		2021年	１，１１３	４１２	
		2022年	７１１	４１４	
	５ヵ年平均		１，２３１	５５６	
	2023年見通し		７００	４２０	
	概要		入荷量は前年より減少のため、販売は苦戦が予想される。花咲き前は咲きすぎは敬遠されるので、注意をお願いしたい。 前年７月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで１位愛知(96.9%)、２位高知(3.1%)となっている。		
スパティフィラム	実績	2018年	４，８２３	３８１	
		2019年	５，８８０	２７９	
		2020年	６，０８３	３１４	
		2021年	７，１０４	３１４	
		2022年	２，９４２	４７１	
	５ヵ年平均		５，３６６	３３６	
	2023年見通し		２，８００	３００	
	概要		入荷量は前年より減少か。年々生産量が減少しているのが要因。４号での生産・出荷がメインである見込み。コロナ禍の観葉ブームも完全に落ち着き、入荷量は減少でも単価は前年よりは厳しい見込み。 前年７月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで１位愛知(54.2%)、２位三重(28.1%)、３位岐阜(17.4%)となっている。		
ドラセナ類	実績	2018年	１９，３５１	７９７	
		2019年	２２，５７５	５７７	
		2020年	２０，０１８	８７２	
		2021年	１９，９３４	１，１２７	
		2022年	１６，４８５	１，２１４	
	５ヵ年平均		１９，６７３	８９９	
	2023年見通し		１６，４００	１，２２０	
	概要		入荷量は前年より減少か。原木類の原価が大きく高騰しているところに、流通価格の低迷もあり、生産の継続が難しくなっている。７号以上の原木類は減少する。６号未満は品薄状態の見込み。 前年７月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで１位愛知(66.2%)、２位沖縄(12.0%)、３位鹿児島(6.2%)となっている。		

いいともあいち運動って知ってる？？

○　県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる

○　Eat more Aichi products（イート モア アイチ プロダクツ）

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート　№601
２０２３年７月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目１番２号
電話　（０５２）９５４－６４３４